

◇平成29年／2017年9月号 第88号◇

会 産経国際書会 報



SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION



上 高円宮妃殿下から「第34回産経国際書展」高円宮賞を受ける風岡五城理事長（8月1日、明治記念館）
下 開会式：左から飯塚浩彦社長、風岡五城理事長、齋藤香坡最高顧問、田中鳳柳最高顧問、村越龍川最高顧問、伊藤欣石名誉理事長（7月27日、東京都美術館）



産経新聞社
代表取締役社長
飯塚 浩彦

書を通じた国際交流を

6月の産経新聞社の人事で、熊坂の後任として代表取締役社長を拝命、併せて産経国際書会の会長に就任致しました飯塚です。熊坂同様、「書」を通じての国際貢献、文化交流の輪を、皆様とともに一段と大きなものにすべく努力してまいりますので、なにとぞよろしくお願い致します。

国際書会の活動については、大阪社会部を経て、広島支局長に着任したころに瀬戸内展を拝見し、また皆様の活躍を記事にすることで、書会の持つ文化的・社会的な影響力を感じておりました。今回の第34回展が書会での初仕事となりましたが、併催のジュニアコンクールも含めつぶさに皆様方の作品を拝見し、また優秀作品を食い入るように見つめる皆様の真摯な姿にも接して、改めて書の持つ魅力と「書の力」を認識した次第です。

産経国際書展は、来年いよいよ35回の記念展を迎えます。35周年イヤーの記念行事として、秋に18年ぶりとなる海外交流展を台湾で行う計画は、既に皆様にお知らせしていますが、その前に本展そのものを大いに盛り上げていかねばなりません。

会員全員が誇りを持って迎えられる35回展の実現に向けて、私も微力ながら全力を挙げて書会の活動を支援いたします。懇親会などでお目にかかる機会があれば、ぜひお気軽に声をおかけいただきたく思います。私たちの産経国際書会を、私たちの力でさらに盛り上げ、日本の書文化と書を通じた国際交流を深めてまいりましょう。



産経国際書会
理事長
風岡 五城

本展を終えて

5月下旬に審査会、7月27日に開場式、続いて8月1日には盛大な贈賞式を迎え、第34回展は無事終了することができました。実行委員の皆様にはそれぞれの立場から献身的なご尽力、ご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

本展が終わって間もない8月10日に総括会議が開かれ、次回に向けての話し合いがされました。審査や展示の方法、期間中のイベントの時期、昇格の問題、さらには35回記念賞の設定等々検討を加えました。会員の皆様にとって参加しがいのある会にすべく一層の改善をしていかねばなりません。

さて、我が産経国際書展も34年の歴史を積み重ね、内容面では充実の度を増して来ますが、近年の出品数の減少は悩ましい問題です。この問題は他展でも同様の悩みを抱えているようですが、ただ手をこまねている訳にはいきません。特に今回は臨書部門の落ち込みが大きかったようです。臨書部門は他の新聞社系の書展にはない部門で、産経展の特色の一つとなっています。創作にあわせて臨書部門への一層のご協力をいただければと思います。

来年の35回記念事業については、今秋にはある程度概要が明らかになる予定です。産経の気運を盛り上げる絶好の機会となりますよう皆様のご理解ご支援を切にお願い申し上げます。

第34回 産経国際書展

7月27日(木)～8月3日(木)
東京都美術館



初日に高円宮妃殿下がご高覧

第34回産経国際書展は、東京都台東区の上野公園にある東京都美術館で7月27日から8月3日まで開かれた。総出品数はここ数年の減少傾向を反映して5,921点だった。今年は、本展開催と同じ時期に「産経ジュニア書道コンクール」を開催したということ、また、展示会場が去年はロビー階、1階、2階と3フロアにまたがっていたが、今年からロビー階と1階の2フロアとなって、作品の鑑賞がしやすくなったことが大きな変更点だった。

最初の同時開催ということで、運営側の不手際もあり、鑑賞者の皆様、出品者の皆様にご迷惑をおかけすることもあったが、来年以降は適宜、できるところから改善していきたいと思う。

今年の高円宮賞は風岡五城理事長、内閣総理大臣賞は青陽如雲常任顧問が受賞した。中国大使館文化部賞、韓国文化院長賞とあわせて4つの上位賞がすべて漢字作品だったのは初めてだった。そして、今年の特別色紙展は高円宮妃殿下から「勢」と「豊」の二文字の御題を頂戴し、80歳以上の会員による色紙展を開催した。色とりどりの色紙74点が飾られた。ま



作品をゆったりと鑑賞

た、本展のPRとして著名人の書も展示した。タレントの中山秀征さん、俳優の藤田三保子さん、松村雄基さん、本展贈賞式の司会でもおなじみのタレント岡部まりさんの作品が特別出品され、話題になった。

来年の展覧会は第35回の記念展、3年後の2020年(平成32年)の第37回展は東京オリンピック開催中の実施となる。東京都美術館での開催は平成33年の5年間、毎年7月27日から8月3日の8日間と決まっている。(事務局)

◆第35回展

会期 平成30年7月27日(金)から8月3日(金)

前期: 7月27日(金)～7月29日(日)

後期: 7月31日(火)～8月3日(金)

30日(月)が展示替え

会場 東京都美術館 ロビー階と1階の第1～第4
展示室

贈賞式・祝賀会 7月31日(火)午後4時～、明治記念館

第 34 回 産経国際書展

書展を振り返って



実行委員長 田村政晴

前回展に引き続き、実行委員長を務めさせていただきました。大きな瑕疵があったとの報告を受けていませんので、概ね描いていた計画通りに実施されたと思います。

私の役割は、各部、各係の連携を密にして機能していただくことに尽きると思います。終えて、正直ほっとしております。これもひとえに村田審査本部長をはじめ、それぞれのポジションを担っていただいた方々のおかげであり、この紙面をお借りして心より感謝申し上げます。来年は35回の記念展で、大枠実施事業が決定しております。これから、更に40回展を

見据えて、昭和59年書会設立の理念まで遡って、振り返る良い時期だと思います。

書道界を取り巻く環境は厳しさを増しており、どの書会も危機感を持っております。私たちは多くの情報を収集し、戦略の見直しを迫られております。これまでの書会の歩みを検証し、産経国際書会の競争力の源泉を冷静に分析してはいかがでしょうか。

産経にしかない特色・長所があります。勿論弱点もあります。弱点は是正し、強いところは更に伸ばします。作品の展示数の増を図ること、作品の質の向上も避けては通れません。課題を明確にし、具体的な対処法を打ち出すことは必須です。口で言うことは易いですが、実行に移すことには大きな困難が伴います。私たちの力を結集しましょう。



中山秀征



松村雄基



岡部まり



藤田三保子



色紙展「勢」と「豊」



審査本部 4 C に基づき公正な審査を



審査本部長 村田白葉

今回審査は、漢字・現代書が2日間の日程となり、心配されましたが、審査員の先生方のご協力により、無事に終了することができました。

各部の審査員は、漢字14名、かな5名、現代書13名、篆刻刻字3名、臨書5名、U23 5名の総勢45名の先生方に4 C に基づき公正な審査をお願いし、審査して頂きました。

そして、最終審査の特別選考委員会には、外部より、筑波大学名誉教授・角井博先生、中国書人家連盟主席・晋嶋先生、二科会常務理事で彫刻家の吉野毅先生、練馬区立美術館前館長・若林覚先生に加わって頂き、13名の選考委員により厳正に審査され、各賞が決定されました。

各審査委員の先生方、審査事務部の皆様、搬出入部の方々をはじめ関係者の皆様にはお疲れ様でした。審査会が、大過なく無事終了できましたことをここに厚く御礼申し上げます。

東京部会 鑑賞しやすくなった会場

7月27日は、テープカットのセレモニーの後、今年は高円宮妃殿下にご来臨賜り、受賞者らとご歓談の後に、会場内をひろくご鑑賞賜りました。午後からはギャラリートークがあり、初日はたくさんの方で賑わいました。30日の揮毫会は、わかりやすい解説と筆の運びに、多くの人が真剣に見入っておられました。この日の入場者は千人を超えました。

「本展」の印象は、東京都美術館のロビー階、1階ともに横ならびに4室が取れたことで部屋の移動並びに鑑賞がしやすくなったこと、特別出品の著名人が4人ともに時間をかけてご覧になられたこと、ジュニア展と初の同時開催で年齢層が広がったこと等です。

東京部会の委員と会員の方々による8日間の受付当番も無事に終了。お疲れ様でした。

次へ向けて一層努力して参ります。暑さの中ご来場頂きました皆様、心より厚く御礼を申し上げます。



東京部会長 武富明子

第 34 回 産経国際書展

ギャラリートーク(7月27日)

企画部長 岩村恵雲

進行役は企画部担当の金丸鬼山副理事長が務められた。先ずギャラリートーク開始に先立ち、伊藤欣石名誉理事長からご挨拶があり、引き続き高円宮賞を受賞した風岡五城理事長のトークとなった。内閣総理大臣賞受賞の青陽如雲先生、韓国文化院長賞受賞の望月暁云先生、産経国際書会会長賞受賞の渡辺敦子さん、清水小舟さん、産経国際書会理事長賞受賞の津久井桂葉さん、国際大賞受賞の横溝景陽さんの順で7名の受賞者によるトークが行われた。

風岡先生の「書けない気持は一緒、書体はどちらでも良いと吹っ切れたので書いた」、青陽先生の「美しいシャキッとした字を書きたい」、望月先生の「伸びる字は長く、丸い字は丸く書く」などという書制作にあたり含蓄のあるお話しが伺えた。引き続き「詩の内容に惹かれた」、「紙や筆にも工夫をした」など各受賞の先生方の作品制作の苦労話、制作に至るまでのエピソードなどが披露された。

1時間余りの短い時間だったが会場から多くの質問もあり、熱気の溢れるギャラリートークとなった。



ギャラリーに囲まれる風岡五城先生



韓国文化院長賞の望月暁云先生



会長賞の清水小舟先生



会長賞の渡辺敦子先生



理事長賞の津久井桂葉先生



国際大賞の横溝景陽先生

揮毫会(7月30日)

企画部 恩田瑞貞

第34回展の中日、7月30日(日)に揮毫会が猛暑の中200名以上のギャラリーを迎えて行われた。開始時間よりかなり早くから先生方の筆の先を確かめようと、良い席を求めて参加される見学者が多く見られた。

今回揮毫をお願いした先生は、今回展で内閣総理大臣賞を受賞された書の世代の会会長の青陽如雲常任顧問と翠鳳会会長の森井翠鳳顧問のお二人だった。青陽先生は、隸書・大篆・楷・行草とテンポよく二尺、六尺紙に5点。

森井先生は、甲骨・金文・木簡・帛書そして仮名と各書体を特注の筆の話を交えながら書かれた。最後にお二方が三尺、六尺紙に合作を 青陽先生が「至誠」と行草で、森井先生が「如神」と甲骨文字で書かれ、豪華なコラボレーションが実現した。会場は大きな拍手と熱気に包まれた。

ご協力頂きました先生方、本当にありがとうございました。



揮毫する青陽先生



作品を前にした森井先生



書き上げた作品について語る青陽先生



合作「如神」を書く森井先生



合作「至誠」を書く青陽先生

第 34 回 産経国際書展

書道講演会

企画部 北野香春

日時 平成29年 7 月28日 (金)

会場 東京都美術館講堂

演題 「硯のはなし」

講師 楠 文夫(硯の資料館室長・イエンタイ社長)



楠 文夫社長

7月28日、同講堂において「硯」の研究の第一人者で、テレビの「なんでも鑑定団」でも硯の事に関しては必ず出演される楠文夫氏による「硯のはなし」の講演会が行われた。

楠氏が子供のころの昭和22年頃は、お稽古事といえば習字とそろばんで、習字を習う子は、どんなわんぱくな子供でも机に向かうと一斉に墨をすった。墨をするときは一心不乱に墨をすった。墨をすることは硯を磨くことで、それは心を磨くことに繋がるという教えがあったからだという。日本では、刀は武士の魂であると言われ、優れた名工が名刀を作ったが、中国では、硯は文人によって愛用され、中国大陸の各地から選りすぐられた宝石のような美しい自然石に名工が心血を注いで硯を作った。そして、それは文人の魂となって各種の名硯が誕生、文人達は日常硯を用いる事から、いつしか硯を心のよりどころとしていたようだ。今回の話の中心は、その中国の名硯である。

中国四大名硯とは「端硯」、「歙州硯」、「澄泥硯」、「魯硯」。

1) 端硯＝広東省の旧地名端州で製作された



硯について語る楠 文夫さん

硯で、端硯には多数の種類があり端溪が流れる斧柯山一帯の硯のみが端溪硯、斧柯山から20km以上離れた北嶺山脈等々の硯を端石硯という。2) 歙州硯＝現在江西省、昔は安徽省歙県(旧・歙州)で龍尾山、別名羅文山の麓を流れる芙蓉溪の一帯で採掘される原石。3) 澄泥硯＝かつては泥土を漉して形成し、焼成したと言われたが、曆とした蘇州の靈巖山の自然石であると判明。表面は粗く見えるけど細かくすれる。淡墨にした時に一番良く、人気が高い。4) 魯硯＝春秋戦国時代に山東省に大国・魯が存在したことから山東省各地の名石、紅糸石、紫金石、尼山石硯を総称して魯硯という。

かつては「端硯、歙州硯、澄泥硯、洮河緑石硯」が四大名硯とされたが、洮河緑石蘭亭硯が緑端であることが判明して、端硯に含まれることになったため、魯硯が加わったのである。硯は長く使っていると墨のおりが悪くなる。それは硯に鋒鋦があるからで、鋒鋦が退磨してつるつる光ようになったら硯専用の砥石で硯を研ぐこと。そうすることで硯の性能は戻る。

最後に楠氏は手のひらに乗るほどの小さな紅い色の硯を取り出して、「これは蝦頭紅澄泥・仙桃硯です」と会場にお見せになり、「この一面の硯を宇宙に例えると、その墨池に一滴の水を垂らすことが日本国中を潤すように思えます。そう考えて、大きく、豊かな気持ちになって下さい」と話を締めくくられた。

また、楠氏からは5冊の「古硯・東京精華硯譜」と21冊の「月峰・泉の森硯譜」自著をご提供頂き、抽選で聴講者にプレゼントされた。

搬出入部 数字と体力の勝負

搬出入部長 磯邊哲舟

搬入当日は早朝から牧野商会の会場全般設営と並行して、搬入場所の詳細設営、そして部員・アルバイトに対する説明集会と進んでいく。これらに対する用具・資料は書会事務局が用意してくれる。特に、100種類以上ある分類仕訳票は、前年度からパソコンでの作成となったので、大活躍である。部員一同感謝・感謝です。

業者をはじめ部員11名のチームワークの良さでその責務を果たせたと思います。改めて皆様に厚く御礼を申し上げます。

審査事務をサポートする複雑な搬出入事務、今後は次代を担う主力戦力として育てる若手のパワーが必要となりそうです。



図録部 入念なチェックを重ねて

図録部長 今田篤洞

図録作成に当たっては、図録全体の構成を重点とするとともに、ノーマスを最重要視した。

新春展では作品の天地が逆に撮影された写真をそのまま掲載するというミスがあったため、今回は、出品票に記入見本の配布、写真撮影の基となる表具店会議への出席、校正作業の回数を増やすなどの手を打った。他にも目次に工夫を加え、巻末資料や新聞原稿の数千人に及ぶ人名チェックに尽力した。

その結果、今回の図録に間違いの指摘は寄せられていないと聞いて一安心している。良きチームワークをもって仕事にあたっていたいただいた部員8名の総力の結果と感謝している次第である。



図録作成の羅針盤、
「出品票綴り」

陳列部 作品を引き立てる展示

陳列部長 山本晴城

第34回展は昨年とは違い、ロビー階、1階のフロアがすべて産経展となり、作品を通覧するには大変に見やすい環境になりました。但し、今年は、ジュニア書道展も同時期に開催ということで展示も同じ日に行いました。多くの人員でそれぞれの展示に当たりましたが、予想以上に時間がかかり、陳列の先生方には多くの負担をお掛けしてしまいました。それでも、時間内に終わりましたのは、熟練ベテランの先生方のおかげです。

臨書コーナーが目立たず、わかりにくいといったご意見なども拝聴し、改善できることは来年に向けて検討をして参りたいと思います。陳列は、如何に各作品を美しく立派に見せるかが使命です。最後に、幹部の先生方より、ご助言・ご指導を頂き感謝申し上げます。



作品が引き立つ展示を考えて

高円宮賞

風岡五城 理事長

多くの人に感謝



「団団氷鏡吐清輝」

人生最高の賞をいただきました。名目上は今回の出品作に対してですが、これまで長年にわたり継続してきた国際交流の実績をも評価していただいた結果のものですから、賞としての重みが違います。只々有難いという思いでいっぱいです。

顧みれば今日こうして書活動ができるのも師山本宏城との出会いがあり、学生時代には恩師の導きがあり、また産経国際書会では諸先輩の書に対する熱い思いに接することができたお陰だと思えます。さらに社中の皆さん初め多くの方々に支えていただきました。感謝のほかはありません。

作品の詩句「団団氷鏡吐清輝」は以前どこかで目にとまり、いつか書いてみようと思っていた句です。句の作者は孔平仲とありましたが、どんな人物なのか定かではありません。この句の意味は、大きな丸い氷の鏡のような月が清らかな光を放っているというもので、特に奇抜なものではありませんが清澄感に溢れています。そこに魅かれて取り組んでみました。隸書風で、あるいは北魏の楷書風でとあれこれ試しているうち



に、書体などどうでもよいではないかとふっと思った時にできたものです。いわゆる雑体書です。

そろそろ古稀を迎える年齢となりました。しかし、なお今の状態から一歩前に進むにはどうしたらよいか悩む日々です。そんな私にとってこの度の受賞は、かけがえのない励みとなりました。書を通じた国際交流にもできる限り努めていきたいと思っています。ありがとうございました。

内閣総理大臣賞

青陽如雲 常任顧問

師の教えの賜



このたびは内閣総理大臣賞を賜り、身に余る栄誉にただただ感謝あるのみでございます。

今回の作品題材は唐の岑参の七言絶句で、彼が西域に旅をしたときに作ったものです。「今夜不知何处宿」というくだりが、私が四国遍路をしたとき同様の経験をしたために、特に好意を持つところとなりました。私は字を書く時すべての情念を捨て、無心になることを心掛けています。ただ書風は長年習った顔法をベースとしたもので、直筆・中鋒による端切れのいい字を書くことに徹しました。

私の今日あるは、小学4年のとき受持ちになった織田子鵬先生との出会いにあります。以来数々の古典法帖の学習をはじめ漢詩・漢文・書道史から文字学に至るまで、全領域にわたる指導を仰ぎ、生涯の師となりました。

今回の受賞も師の教えの賜であり、感謝の念を亡き師に捧げます。



「岑参 磧中作」





中国大使館文化部賞
寺尾桂翠 副理事長

氣を引き締めて

中国大使館文化部賞受賞との報を受け、浅学菲才の私が・・・と唯々驚いております。

毎回の如く書き込み不足の愚作を推挙して頂き身に余る光栄と感謝致しますとともに、責任の重さを感じております。心から御禮申し上げます。産経国際書展への参加は第8回展からですが、翌9回展より、師、大館桂堂先生の指導を仰ぎながら書技と創作等の自由な産経国際書展に出品する為に有志を募り、岡山白桃会を発足。地域文化の振興とともに、書会発展に努力して来ました。今後も更に気を引き締め受賞に恥じる事のないよう研鑽を積み後進の育成に尽力させて頂く所存でございます。変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



「動靜不離於理」

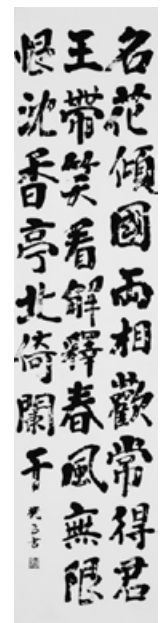


韓国文化院長賞
望月曉云 常務理事

韓国文化院長賞を受賞して

このたび、第34回産経国際書展において「韓国文化院長賞」という、思いがけない大きな賞を拝受いたしました。小生の書歴60年の中で最高の喜びと、感謝の念で一杯でございます。今回の作品は、当初、行草体で取り組もうと様々な草稿を書き、作品制作に取り掛かりましたが、日々追うごとに気に入らず、満足のいかないまま締め切りが迫ってきました。例年ですとある程度書けたら、それで良しとするのですが、今年は、そこで気分転換として、普段書き付けない「楷書体」に切り替えたのです。整然と、まとめれば良いのだと自分に言い聞かせ、集中して書くことが出来ました。行草体は字配りや文字の大小など変化性を表現せねばならないのですが、楷書体では整然と書くことに努めました。但し、各文字の線質にはある種のこだわりを持ちました。

今回、小生の拙作をご推奨下さいました諸先生方に厚く御礼を申し上げます。受賞のご挨拶とさせていただきます。



「李白 清平調詩」

第34回産経国際書展

受賞者 喜びの声

(敬称略)

産経国際書会会長賞 飯田恵美子



大きな賞をいただき身に余る光栄です。先生方より頂いたご厚情に感謝致しますとともに、忙しい日々の中で集中して筆を握る環境を作ってくれた家族には感謝しています。これからも倦まず弛まず書を楽しみたいと思います。

産経国際書会会長賞 渡辺敦子



この度は身に余る賞をいただき、感激と感謝の気持ちで一杯です。心揺さぶられる詩に出会い、創作意欲をかき立てられました。書成会の先生方に後押しされ一気に仕上げました。これからが正念場。増々精進していきます。

国際大賞 横溝景陽



この度の受賞、身に余る光栄であり感謝と感激でいっぱいです。厳しくご指導して下さった伊藤欣石先生、諸先生方、本当に有難うございました。今後も現代書の面白さを追い求めて一層精進して参りたいと思います。

外務大臣賞 高橋雄喜



特別賞受賞の朗報に驚き、嬉しさと同時に亡き松田海軒主幹と父鶴舟への報恩感謝の念で感無量です。また、この受賞は書峰書道会の本展への永年の協力の報償だと捉え、書友への感謝と『一業専心で書に精進』を誓います。

伊達政宗賞 建部恭子



この度、伊達政宗賞という大きな賞を頂きまして大変光栄です。今年は伊達政宗公生誕450年にあたり、この様な記念の年に頂く幸せを感じております。皆様に感謝し、更に精進してまいります。有難うございました。

産経国際書会会長賞 清水小舟



ともかくこの年齢で、この環境で書いた作品が受賞の対象になったとは、嬉しゅうございます。有難うございました。会場では作品の前に立ち、やはり、きつさと優美さの欠如。その時の気持ちは争えないものだと思つたとともに。

産経国際書会理事長賞 津久井桂葉



この度、第34回産経国際書展に於きまして産経国際書会理事長賞をいただきまして有難うございました。驚きと感謝の気持ちでございます。これも偏に審査に当たられました諸先生のご厚情と心より御礼申し上げます。健康で書く事の喜び、また書を通じて豊かな人生を過ごしたいと思っております。これからも一層努力精進して参りますので御指導の程よろしくお願い致します。

文部科学大臣賞 村松道愉



この度は、文部科学大臣賞を戴き身に余る光栄です。日頃より御指導いただいております村越龍川先生はじめ、諸先生方に感謝申し上げます。この受賞に恥じぬよう、更なる作品の向上に努めて参ります。有難うございました。

産経大賞 山本美峰



この度は、名誉ある産経大賞を戴き、身に余る光栄に存じます。これも偏にご指導くださいました伊藤春魁先生、松田真香先生のお陰と心より感謝申し上げます。今後も「一生勉強」と日々精進して参ります。誠にありがとうございました。

第 34 回 産経国際書展受賞者 (敬称略)

高 円 宮 賞

漢字部門 風 岡 五 城 (愛知県)

内閣総理大臣賞

漢字部門 青 陽 如 雲 (東京都)

中国大使館 文化部賞

漢字部門 寺尾 桂翠 (岡山県)

産経国際 書会会長賞

漢字部門 飯田恵美子 (埼玉県)

かな部門 清水 小舟 (静岡県)

現代書部門 渡辺 敦子 (山形県)

韓国文化 院長賞

漢字部門 望月 暁云 (千葉県)

産経国際 書会理事長賞

漢字部門 津久井桂葉 (埼玉県)

伊達政宗賞

現代書部門 建部 恭子 (宮城県)

国際大賞

現代書部門 横溝 景陽 (神奈川県)

文部科学大臣賞

漢字部門 村松 道愉

無鑑査会員特別奨励賞

漢字部門 五十嵐 光泉

漢字部門 加藤 真風

漢字部門 城田 桑軒

漢字部門 玉田 栄月

漢字部門 寺岡 祥雲

漢字部門 出羽 雅陽

漢字部門 山崎 幽華

かな部門 大西 紫蓉

現代書部門 井上 醉生

現代書部門 佐々木 小扇

現代書部門 塚原 和子

現代書部門 福島 恭子

現代書部門 藤田 翠紅

現代書部門 三浦 茂子

臨書部門 門山 玲花

篆刻刻字部門 三宅 華子

太宰府天満宮賞

漢字部門 藤井 玉咲

外務大臣賞

現代書部門 高橋 雄喜

太田道灌やまぶき賞

漢字部門 沼田 香雪

かな部門 齊藤 春欣

現代書部門 鎌形 美遊

産経大賞

かな部門 山本 美峰

無鑑査会員奨励賞

漢字部門 進藤 栄峰

かな部門 本間 友雪

現代書部門 松崎 祥花

臨書部門 本多 久笙

産経準大賞

漢字部門 邊見 鳳水

漢字部門 藏 泰中

漢字部門 松本 昌雪

かな部門 米山 美鈴

現代書部門 高橋 嘉代

現代書部門 平岡 良子

現代書部門 山田 幸江

臨書部門 大崎 翠石

会友特別賞

〈漢字部門〉	鎌田 嘉壽	国分 敬扇	西川 遷石	早川 智心	福田 圭華
〈かな部門〉	大久保 節子				
〈現代書部門〉	石原 圭芳	岸 弘子	佐々木 翠萌	坪石 孝子	船木 閑清
〈臨書部門〉	宮本 香祥				

会友賞

〈漢字部門〉	赤阪 瑞舞	石井 翠香	石元 城軒	伊藤 恵華	伊東 星昂	今村 華綏
岩間 かほる	大橋 芳順	大森 翠山	小野寺 聖乗	片岩 松琴	加戸 秀泉	加藤 香雪
菊間 志響	小林 紫泉	小林 智穂	小林 邑碩	佐野 清風	塩川 千津	柴田 静翠
鈴木 祥扇	関 敦恵	代島 翠葉	高崎 千蕾	高平 肇植	瀧澤 龍石	竹之内 萌雪
武山 恵美子	角田 雅泉	土居 徹山	徳淵 明峰	中根 静流	仲野 岳城	中村 紅舟
中村 芝陽	西山 揺風	韭塚 麗鳳	丹羽 新葉	橋爪 玉雪	橋本 浪溪	花井 萃川
藤原 英龍	松尾 香溪	三井田 竹翠	三浦 希韶	三浦 玉華	水田 翔葉	水野 玉苑
村上 徹舟	村山 蛭泉	森田 東敬	森脇 熒洞	諸橋 翠泉	矢野 春潮	山本 操一
和田 薫葉	渡辺 吾風					
〈かな部門〉	井上 すみ子	内村 才鷺	江川 松静	鰺崎 紅葉	黒田 幸子	渡邊 彩花
〈現代書部門〉	浅倉 めぐみ	上釜 美由紀	上田 綾美	海野 しずか	大泉 凜泉	小野 寿美子
加藤 翠苑	河上 紋子	菊池 美津子	倉持 喜扇	栗原 洋子	児玉 美登里	小西 香苗
小林 樵月	小藪 まゆみ	佐伯 香潔	坂井 節江	坂根 冴美	櫻井 研堂	佐藤 有光
塩原 大輔	清水 裕理	須藤 恵美子	高市 翠柳	竹内 花子	竹花 晴夫	達家 祥琴
谷川 仁美	丹野 萩逕	中村 青秀	中村 双琴	布目 京陶	根本 芳枝	馬場 睦子
濱口 章子	林 加代	平野 胡舟	福元 万理子	堀川 文恵	眞壁 勝子	増田 秀光
松井 桂翠	松岡 宏美	丸山 京華	宮古 幸舟	森廣 大丘	柳澤 夢苑	山田 豊鶴
山田 政継	横尾 春風	吉川 妙子	吉田 粹京	吉田 峰子		
〈臨書部門〉	池田 芳翠	小川 香翔	森川 圭花			

会友奨励賞

〈漢字部門〉	江本 清夏	亀井 稜石	北古賀 篤風	鹿野 紅葉	松本 稻華
〈かな部門〉	大山 ゆかり	武藤 久美子			
〈現代書部門〉	大沼 真弓				
〈臨書部門〉	大森 香楓	小玉 溪泉	嶋田 和美		

一般公募・特別賞

東京都知事賞

〈漢字部門〉	新野 彩香
--------	-------

愛知県知事賞

〈かな部門〉	増田 孝志
--------	-------

産経新聞社賞

〈漢字部門〉	木村 幾月	藤田 鳳洞	〈かな部門〉	菊島 克月
〈現代書部門〉	内田 子鴻	内田 陽子	〈臨書部門〉	宮田 博之

フジテレビジョン賞

〈漢字部門〉	伊藤 恵翠	〈かな部門〉	山吹 英夫	〈現代書部門〉	佐藤 徳子
--------	-------	--------	-------	---------	-------

ニッポン放送賞

〈漢字部門〉	程 中	〈現代書部門〉	青森 智泉	〈臨書部門〉	櫻本 静月
--------	-----	---------	-------	--------	-------

国際賞

〈現代書部門〉	加藤 洋子
---------	-------

U23 大賞

〈漢字部門〉	高田 優奈
--------	-------

U23 奨励賞

〈漢字部門〉	植野 加奈子
〈現代書部門〉	皆川 敦

夏 期 研 修 会

2017産経国際書会 夏期研修会

日時 8月19日(土)、20日(日)

場所 群馬研修館

書道合宿

今年の夏期研修会は12年ぶりに群馬研修館で開催された。8月19日、東京10時と高崎12時発の貸切バスで29人の参加者を乗せて出発し、まず13時から下仁田の国登録有形文化財の「双溪堂」を見学。ここで3人が合流、総勢32人での研修会となった。300年の歴史を持つ海鼠壁の目立つ建物で幕府の巡視役や水戸天狗党の宿泊所ともなっていて、各部屋には江戸時代の書家、亀田鵬齋の書や屏風、多くの展示品が飾ってあり、当時をしのばせる。語り部となっている子孫の神戸金貴氏に説明を聞くことができた。

バスで研修館に移動、周囲を深い山々に囲まれた急坂の上にあるので、歩くのに息切れして到着、スタッフの4、5人が先に行き準備万端整えて下さったので、すぐに字を書くことが出来た。事前に頂いたプリントの沢山の課題の中から好きな字句をどんどん書く。15時過ぎから17時まで、皆、もりもりと書いていった。紙、墨、文鎮、下敷きが用意され、筆だけ持参は有難かった。名誉顧問の山下海堂先生は大字を伸びやかに書き、理事長の風岡五城先生は力強

研修部 木住野栄

い隸書で、常任理事の永田龍石先生は左手の魅力を披露して下さい。皆、書いた作品は壁にずらりと貼って、人の作品を見て廻るのも勉強にもなった。あっという間に終了時間となり、ホテルアミューズ富岡にバスで移動、18時30分から懇親会が始まった。

福本会長代行のご挨拶があり、竹澤玉鈴名誉顧問の乾杯で始まり、産経で作ったお酒なども登場、カラオケも披露され和気藹々となり交流も深められた。

20日の朝は夜に降った雨も止み、山は霧がかかっていたが、8時30分にホテルを出発、9時からイベント「Tシャツにカラー墨で書く」を実施、全員に5色のTシャツを3枚ずつ配りカラー墨も5色を5カ所に置いて、好きな字句を好みの色の場所へ書いて書いた。それぞれ魅力あるお土産品が出来たと大喜び。最後に会場の中央に大きな白布を置き、山下先生が真ん中に「産」と大きく書き、回りに全員で寄せ書きをした。この後、庭で記念撮影と閉会式を行って2日間の意義ある書道合宿を打ち上げ、皆満足して帰途についた。

快適な群馬研修館で

2017産経国際書会研修会が12年ぶりに群馬研修館で開催される事になりました。研修館部としては、如何に研修館で学び、楽しく過ごしていただけるかと、担当の諸留大穹先生と打合せをして、今まで利用された方々のご意見も伺い、全館を出来るだけ清掃して快適にお迎えしたいと、皆様が高崎で「双溪堂」を見学研修されている間、大掃除する事にしました。勝田晃拓、眞田

研修館部担当副理事長 坂本香心

朱燕、北野香春、松岡篁月先生達に応援に加わっていただき、山間とはいえ暑さの中、大汗を流しながらも見事にきれいになりました。爽やかな風が通り抜けて、見学から戻られた皆様も大変喜んで下さいました。今後、研修館を利用される方も安心して使用できるかと思います。応援して下さい先生方には厚く御礼申し上げます。



研修館部・坂本香心先生らの準備で
気持ちよく研修がはじまりました



さあ、書きましょう



ここは、こう書けば、もっといいん
じゃない？



どんどん、書こう！



初めてTシャツに書いてみました



社中のユニフォームにしようかしら



記念の寄せ書きの真ん中に「産」と
揮毫する山下海堂名誉顧問



最後に伊藤本部長が目玉マークを
書き入れて



研修館の前で記念撮影

【講座内容と講師】

日にち	時間	内容
8月19日(土)	13:00~14:00	双溪堂(下仁田)で歴史講和(神戸金貴氏) とにかく書く！ ・課題を中心に思い思いに書きます 懇親会
	15:00~17:00	
	18:30~20:00	
8月20日(日)	10:00~12:00	Tシャツに文字を書こう ・書く楽しさに触れる ・記念の寄せ書き

2017産経ジュニア書道コンクール

「2017産経ジュニア書道コンクール」開催初日には高円宮妃殿下がお成りの栄に浴し、恐悦至極でありました。ジュニア展は皆様のご理解ご協力により盛会裡に終了することができました。紙面をお借りして御礼申し上げます。応募総数9,322点。昨年は8,487点。800点の出品増となりました。これも新聞社、書会、部員が一丸となった努力の成果であるといえます。もはや1万点は夢ではなく現実のものとなりつつあります。次回展に向け過去のデータ分析、地域差の解消、課題の選定、トメハネ等規制を見直し、児童生徒等が筆による文字を書くこと、表現することの楽しさと喜びを実感できるような方策を打ち出し、ジュニア展のさらなる発展に加速をつけたいと考えています。



教育部 高橋照弘

本年より産経本展とジュニア展の同時開催となりました。事務局は通常業務に加え2つの展覧会を同時に進行させる大きな負担を抱えることになりました。事務局、教育部は綿密な打合せを行い、作品の仕分け整理を教育部が担当し、この部分を事務局は本展への作業に充てることとなり、事務局の仕事の軽減を多少図ることができました。

昨年の贈賞式は、小中高同時に行い予想以上の入場者となり、式場内は大変混雑をし、また、長時間を要し場内が落ち着かぬ雰囲気があったことを踏まえ、本年は午前高校生、午後小中学生と二部制とし、混乱なく贈賞式を行い得たのです。

陳列は一部前後期の入れ違いが生じたが、確認作業の手順を遵守し是正していきたいと思います。同時開催の不安危機感の良い緊張感を生み、部員の自覚を高めチーム力となって運営することができました。初回にも関わらずほぼ予定通り進行終了できたことは合格点をつけても良いと思っています。

審査委員…【審査長】高橋照弘、【実行委員長】眞田朱燕、【審査員】安部美芳、生田佳葉、市原蘇水、石川杏華、泉芳秋、大谷芳雨、岡本杏華、恩田峰道、影山瑤琴、勝田晃拓、鴨田茜竹、興膳知子、五戸光岳、小林紫雲、佐々木天道、関根史山、田中春畝、長岡輝美、永田昌子、中村雪鷺、長谷川明扇、久田方琥、星野葉柳、前田恵泉、荻口草川、三宅秀紅、宮平翠玲（五十音順）



私の作品みつけた！



栄えあるジュニア賞



「上手に書けるようになりたいなあ」

●特別賞（中学生以下）

文部科学大臣賞	工藤加帆（青森・弘前大学教育学部附属中学校）
ジュニア大賞	印南遥（栃木・那須塩原市立西那須野中学校）
東京都知事賞	木村佳鈴（東京・東京女学館中学校）
埼玉県知事賞	川田茉侑（埼玉・富士見市立水谷小学校）
千葉県知事賞	坪井涼（千葉・千葉市立泉谷中学校）
神奈川県知事賞	中西紀乃（神奈川・川崎市立玉川中学校）
産経新聞社賞	越前はな乃（岩手・岩手大学教育学部附属小学校）
産経国際書会理事長賞	宮林茉穂（宮城・仙台市立南中山中学校）
産経国際書会理事長賞	宇都野菜央（埼玉・川口市立西中学校）
フジテレビジョン賞	東拓真（栃木・宇都宮短期大学附属中学校）
ニッポン放送賞	高橋実結（宮城・仙台市立南中山中学校）
国際友好賞	中村晶帆（奈良・奈良県大淀町立大淀桜ヶ丘小学校）
産経新聞社賞	謝紀婕（台湾）
産経新聞社賞	尾藤ななみ（愛知・名古屋市立楠中学校）
産経国際書会理事長賞	本田京楓（愛知・豊田市立浄水中学校）
フジテレビジョン賞	西村彩花（和歌山・和歌山県立向陽中学校）
ニッポン放送賞	伏木ひより（栃木・栃木市立栃木西中学校）
国際友好賞	田中碧（長野・長野市立昭和小学校）
	フォード日和（ニュージーランド）



文部科学大臣賞の工藤さん



特別賞3点！

●ジュニア賞（中学生以下）

A部門

雨宮沙雪、飯島杏奈、石黒愛佳、加藤琴、亀岡徳斗、黒部瑠希、小久保志帆、児玉和奏、小峰未憂、古村倅奈、酒井みと、佐藤の、竹内理紗、玉木應矩、玉木千尋、鶴蒔由花、道満歩果、登家綾香、富石悠加、長岡結衣、中森百優、名倉奈々、平岡桜子、藤本梓、増田結咲、松井明良、松下佑香、松村咲、眞邊佳菜、宮脇由佳、望月葉緒菜、山下理子、山本栞、吉岡織恵、依田桃果

B部門

青山純佳、阿瀬愛実、荒木夢佳、飯塚咲幸、伊東璃子、岡田萌和、長田萌、鎌田愛莉、小林葵斗、佐々木昂成、末永ゆう、鈴木みらの、鈴村夏生、須藤花、関根優菜、竹下陽子、田中紗綾、谷口美加、土屋歌桜、西岡良、袴田優愛、浜名美結、平間優奈、別所花菜、松岡聖音、森湖都、森川明穂、安間悠結

●いきいき賞（中学生以下）

A部門

有友瑞希、犬飼裕子、上原古都奈、榎本翔駿、大橋一平、北村優帆、栗田琴子、小島沙季、齋藤晴菜、定野美沙都、佐藤桃子、庄田彩音、須藤光、友森彩瑛、中茎穂香、中島光恵、中村紗彩、西澤柚和、藤沢功香、村尾樹里、村岡花菜、廻奈央、森岡海帆、山口楓花、山崎花笑、山本莉衣奈、油布瑞季、萬風雅、渡邊百香、渡辺悠真

B部門

青木杏果、阿部達也、飯塚大地、池田蓮乃音、伊東琥子、井上靖仁、小川咲花、片岡紗良、齋藤大河、澤田唯衣、設楽莉彩、高山奈々恵、田中綾真、中村日和、野方沙織、橋口季輝、畑後若那、藤岡陽那、宮崎咲良

●特別賞（高校生）

産経新聞社賞	大谷奈々（長野・長野日本大学高等学校）
産経新聞社賞	中村莉子（神奈川・神奈川県立横浜南陵高等学校）
産経新聞社賞	日原彩乃（山梨・山梨県立桃花台学園）
産経新聞社賞	松江寿香（青森・青森県立五所川原高等学校）
産経新聞社賞	松村彩（静岡・静岡県立浜松南高等学校）
産経国際書会理事長賞	柿沼舞（神奈川・専修大学附属高等学校）
産経国際書会理事長賞	河村光太郎（広島・広島新庄高等学校）
産経国際書会理事長賞	佐藤桃（宮城・東北学院榴ヶ岡高等学校）



大人も顔負け、高校生優秀作品

●高校生奨励賞

A部門

春日遥、川口凛々、黄浚輝、小松あゆ、齊藤絢音、定塚珠来、中村有希、新井野真勝、西川沙希、藤原爾子、吉田千優

B部門

伊藤優里亜、江守楓、岡村咲也加、柏谷春奈、木村夏華、佐藤紅音、佐藤歩実、新名絵梨加、杉谷恭一、谷村舞羽、土屋萌々花、寺田淳哉、直江優都、中條未菜、永田芽衣、中野沙耶、平山椎奈、藤井真希、藤岡夏翠、増田風香、松尾日世里、皆川紗侖里、村山和奏、持永明香、本白水萌子、森佳乃、渡瀬こころ

第34回 産経国際書展“新春展”募集要項

開催要項(概要)

- 【名称】 第34回産経国際書展“新春展”
【主催】 産経新聞社 産経国際書会
【会期】 平成30年1月24日(水)～2月5日(月) 1月30日(火)は休館日
【会場】 国立新美術館
〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2 TEL03-6812-9900 FAX03-3405-2531
【入場料】 500円 (心身に障害のある方と付添いの方、65歳以上、および学生は無料)

出品要項(概要) ○申込締切:平成29年10月27日(金) ○搬入締切:平成29年11月17日(金)

《新春展Ⅰ 代表展》

- 【出品資格】 産経国際書会の下記会員
最高顧問、名誉顧問、常任顧問、顧問、
客員顧問、参与、副会長、名誉理事長、
理事長、理事長代行、副理事長、常務理
事、専管理事、理事、監事、評議員
【寸法】 タテ8尺ヨコ6尺(242cm×182cm)以内。
全紙以上。但し参与以上は全紙以下も可。
篆刻、刻字、卷子・折帖作品は上記サイ
ズ外。
【出品料】 5万円
【特典】 作品を掲載した産経国際書会代表展の図
録を1冊進呈(希望者には5冊まで)
【搬入】 出品票に必要事項をご記入の上、出品料
を添えて指定表具店へ。

《新春展Ⅱ》

- 【出品資格】 審査会員、無鑑査会員
【寸法】 タテ8尺ヨコ6尺(242cm×182cm)以内。
全紙以上。篆刻、刻字、卷子・折帖作品
は上記サイズ外。
【出品料】 3万円
【特典】 作品を掲載した産経新聞「産経国際書展
新春展特別版」発行し、希望者には5部
まで進呈
【搬入】 出品票に必要事項をご記入の上、出品料
を添えて指定表具店へ。

《新春展Ⅱ》

- 【出品資格】 満18歳以上(産経国際書会会友含む)
【寸法】 半切タテヨコ(135cm×35cm)、全紙2
分の1(70cm×68cm)
※搬入は未表装で出品票に必要事項を
ご記入の上、産経国際書会事務局まで。
団体の場合は一括出品をお願い致しま
す。
※出品作品はすべて展示します、但し、
規定寸法と異なる場合には展示できな
い場合がありますのでご注意ください。
【出品料】 2万円
【審査】 12月上旬に産経国際書会役員による公
正な審査を実施します。
【賞】 会友の部: 会友奨励賞(賞状、副賞)
公募の部: 産経新聞社賞(賞状、副賞)
奨励賞(賞状、副賞)
【特典】 ①作品(半切タテのみ)を軸装にして
返却します。(表装料はいりません)
②産経新聞社賞受賞者が平成30年7月
に行われる第35回産経国際書展に公
募で出品する場合は出品料を無料と
します。
【贈賞式】 平成30年1月25日(木)午後4時～

資料請求先 〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2 産経国際書会 新春展Ⅱ係
問い合わせは TEL03-3275-8902 FAX03-3275-8974

新春展Ⅱの作品送付先 藤和額装(株) 〒234-0054 神奈川県横浜市港南区港南台7-51-12
TEL045-833-5273 FAX045-833-5275

祝賀会 ◎平成30年1月25日(木)午後4時～ ◎会場 リストランテ・ベニーレベニーレ(JR原宿駅、
地下鉄千代田線明治神宮駅から徒歩1分) ◎会費 1万円

書 展 ト ピ ッ ク ス

第4回栗栖芳樹書作展

栗栖芳樹

会期●平成29年4月29日(土)～4月30日(日) 会場●ギャラリー第2ステージ(兵庫)

今回の書作展は、現代書作品18点と現代書の字句を織りの技法を駆使して再現した染織家のアート作品(タペストリー)の計19点を展示。表具も自ら手掛け、布をベースにしたオリジナル表装は、各作品にとっても調和していると好評であった。また、「新聞の記事を見て」と遠くから来館された方もあり、感謝の念をより深くした。



郁泉・美彰刻書二人展

浅川美彰



会期●6月2日(金)～7日(水) 会場●高崎シティギャラリー

白い壁の広いギャラリー、私たちの作品が小さく消えてしまうのではと思いましたが、計62点の作品は、落ち着く場所を得たように6日間、多くの人が来場、なんと962人もの人に見ていただけました。木の温もりの中に彫り起こされた一文字一文字は命を宿して誕生したようと感想をいただき、新たな字を生み出していきたい意欲をもちました。製作から展示までご指導くださった石井長慶先生に感謝しつつ。

尚友会65周年記念展

岩間清泉

会期●6月14日(水)～18日(日) 会場●沼津ブラザヴェルデ市民ギャラリー

今回の展覧会は「第40回東洋書芸院展」で40年間の尚友会の功績が認められ褒章を受けた事と65周年が重なり実施しました。

少字数、墨象、近代詩文などの現代書作品を中心に漢字、かな、写経など、また作品の大きさも3×6から半切までと幅広い作品77点を展示。前会長の故佐野丹丘先生の二曲屏風も特別展示し、初日より多数のお客様をお迎えし賑わいました。



長慶・松苑 刻書夫婦展

石井長慶

会期●7月4日(火)～8月6日(日) 会場●埼玉伝統工芸会館

夫婦あわせて164歳。元気で二人展なんて有難いことです。諸先生方、友人、知人の皆様のお力添えの賜物と感謝申し上げます。夫婦旅の思い出など、刻書や絵にして残そうと出来た拙作を集め、展示していただきました。会場が和紙の里ということもあって、3,016人の皆様のご来館をいただきました。

第10回記念青成会書展

須藤松閑

会期●6月27日(火)～7月2日(日) 場所●銀座大黒屋ギャラリー

青成会書展も10年目を迎え、漸く地歩を固めたような感じがします。書道展なので当然の事ながら設立の理念を意識して進んできました。それは、1.目録なしに何とか読んでもらえる事(可読性)。2.観てもらって心に響く事(思想性の内在)。3.親しみ易い事などです。

これらと並行し研究会では理論を踏まえての創作に腐心してきたように思います。



現代書二十人展

会期●7月9日(日)～23日(日) 会場●日米文化会館

ラモス逸子

米国書道研究会(生田博子会長)は去る7月、ロサンゼルス日米文化会館メインギャラリーに於いて「日本の書 現代書20人展」を開催。オープニングには在ロサンゼルス日本国総領事館代表を始め地元有力諸団体、文化団体、学校関係と後援者多数が出席され、現代書の解説、席上揮毫で賑わった。出品作は大作のみとし現代書の多様な造形と字句の内容が好評で熱心に見学する外国人の姿が印象的であった。予想以上に反響を呼び次回を期待する声も多い。



ふるさと

米沢に輝け書の仲間たち展2017

大久恵華

会期●8月8日(火)～13日(日) 会場●よねざわ市民ギャラリーナセBA

出品者は産経展系と毎日展系、それに現在フリーで活躍している13人で、作品は3×10尺の大作から小品まで、詩文書を中心に29点。予想を上回る来場者があり、充実した活気ある展覧会となりました。

第40回記念墨晨書道会展

岩田正直

会期●8月18日(金)～21日(月) 会場●埼玉会館

一般部215点、学生部1,712点を展示いたしました。

第1回展は昭和52年3月ですのでアッという間に時が流れた感じがいたします。当初一流一派に偏らないよう書壇院、謙慎、日書美、回瀾、天真から各1名と所属の異なる審査員を外部から招聘いたしました。現在は産経、東方、埼書連を目標に研鑽を続けています。



光風書院創立72周年 五十嵐光子記念展

五十嵐光子



会期●8月22日(火)～27日(日) 会場●銀座清月堂画廊

師、藤岡保子先生とともに歩んでこられた書の道。急に開催が決まった作品展ですが、90歳を越して、年なりに頑張りました。現在、東西書芸会の伊藤欣石先生の指導のもとにこの会を開くことが出来た事は、私の喜びです。これからもご指導ご鞭撻をいただきながら、会の成長を見守りたいと願っています。

香坡先生の大作が伊勢山皇大神宮に

「関東のお伊勢さま」伊勢山皇大神宮(横浜市)に完成した新神殿に、最高顧問、齋藤香坡先生の松を描いた大作＝写真＝が奉納されました。同神宮の創建150年記念事業の一環。日本画家の鳥居禮氏による「大遷御の図」なども飾られています。神殿が使用されていないときは見学可能(9～16時)で、社務所 ☎045(241)1122に希望すると案内してくれます。(事務局)



各会書展お知らせ(産経新聞社後援)

〈平成29年9月～平成30年1月〉 ①会期 ②会場 ③代表名

9月

Group F2017展

- ①9月22日(金)～9月24日(日)
- ②文京ギャラリーシビック
- ③佐藤 早苗

10月

第67回公募洸風会書道展

- ①10月7日(土)～10月9日(月)
- ②埼玉県熊谷市中央公民館
- ③岩下 鳳堂

第30回記念研友社展

- ①10月10日(火)～10月15日(日)
- ②東京銀座画廊美術館
- ③田中 鳳柳

第23回龍峽書道会役員展

- ①10月10日(火)～10月15日(日)
- ②銀座鳩居堂3F
- ③林 龍成

第11回蓮習社書展

- ①10月12日(木)～10月15日(日)
- ②三重県立美術館
- ③小野 亭良
村瀬 敢山

第33回瑤樹会書展

- ①10月13日(金)～10月15日(日)
- ②フォーシーズンズ志木ふれあいプラザ
- ③岡村 公裕

2017菰水清秀書展

- ①10月17日(火)～10月22日(日)
- ②東京銀座画廊美術館
- ③今田 篤洞

第42回煌心同人書展

- ①10月18日(水)～10月22日(日)
- ②銀座かねまつホール
- ③松崎 龍翠

第49回一煌会書展

- ①10月19日(木)～10月21日(土)
- ②銀座洋協ホール
- ③石川 天瓦

五月女紫映パリ個展

- ①10月10日(火)～10月17日(火)
- ②パリ、サンジェルマン・デ・ブレ(エチエンヌ・ドゥ・コーザン・ギャラリー)
- ③五月女 紫映

第29回書心会書展

- ①10月20日(金)～10月22日(日)
- ②所沢市民センター ミューズ
- ③加藤 深流

第27回遊心書道会展

- ①10月20日(金)～10月22日(日)
- ②広島県民文化センター 地下展示室
- ③大庭 清峰

第5回海游舎書展

- ①10月20日(金)～10月25日(水)
- ②埼玉会館
- ③山下 海堂

松村竹扇書展

- ①10月23日(月)～10月25日(水)
- ②八戸市“はっち”シアター
- ③夏堀 竹翠

第46回千墨書道展

- ①10月25日(水)～10月30日(月)
- ②品川区民ギャラリー
- ③近藤 豊泉

第3回方城書院書画展

- ①10月26日(木)～10月31日(火)
- ②茨木市立ギャラリー
- ③久田 方琥

11月

第63回あしで会選抜書作展

- ①11月10日(金)～11月12日(日)
- ②尼崎市総合文化センター
- ③今口 鷺外

第35回硯田社書展

- ①11月10日(金)～11月15日(水)
- ②高新画廊
- ③橘 黄華

第25回記念柏葉書展

- ①11月11日(土)～11月14日(火)
- ②柏市民ギャラリー Day One
タワー3階(パレット柏)
- ③高頭 子翠

第30回日書美公募展

第30回日書美学生公募展

- ①11月11日(土)～11月12日(日)
- ②岸和田市立文化会館
- ③樽谷 龍風

第23回秋桜会書展

- ①11月14日(火)～11月19日(日)
- ②銀座 大黒屋ギャラリー
- ③鎌田 悠紀子

第9回まほろば書展

- ①11月16日(木)～11月19日(日)
- ②すぺーす蒲葵
- ③赤池 溪舟

第34回記念CMO展・近畿席書会

- ①11月18日(土)～11月19日(日)
- ②藤井寺市民総合会館
- ③正川 子葉

2017巳歳の会書展

- ①11月21日(火)～11月26日(日)
- ②東京銀座画廊美術館
- ③今田 篤洞

第38回東西書展

- ①11月22日(水)～11月26日(日)
- ②日本橋好文画廊
- ③伊藤 欣石

遠藤乾翠の個展 乾翠のこん にたⅦ展

- ①11月28日(火)～12月3日(日)
- ②銀座 鳩居堂画廊3F
- ③遠藤 乾翠

第33回全日本高等学校書道公募展

- ①②日本書道専門学校発行の新聞紙上展(11月下旬)
- ③高橋 照弘

12月

心芸墨美作家協会2017選抜展

- ①12月4日(月)～12月10日(日)
- ②セントラルミュージアム銀座
- ③岩浅 写心

「間・ま・ま」岩間桃香・Akiko Tanimoto

- ①12月5日(火)～12月10日(日)
- ②銀座清月堂画廊2階
- ③岩間 桃香

〈H30年〉1月

雅誕会書展

- ①1月4日(木)～1月7日(日)
- ②東京銀座画廊・美術館
- ③伊藤 泰子

追 悼

次の先生が黄泉につかれました。
本会での活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、
心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(敬称略)

常務理事 竹内 小逕(平成29年5月)

編集後記

7月下旬九州北部を襲った豪雨により、多数の方が亡くなられましたことに心よりお悔やみ申し上げます。また、各地豪雨により被災されました方々にも心よりお見舞い申し上げます。

今年も各書展は目白押しでした。7月27日(木)～8月3日(木)まで、東京都美術館で開催された第34回本展は、猛暑にもかかわらず連日盛況でした。初日のギャラリートークでは受賞された先生方の作品解説に大勢の来場者が聴き入っていました。揮毫会では青陽先生、森井先生が見事な筆さばきで作品を仕上げられ、会場から拍手とため息が漏れていました。

また、ジュニア展も本展と同時開催となり、親子連れで賑わっていました。エネルギーな作品群は書塾の先生方の指導の賜と、これからの書道文化の担い手として育て欲しいと心から思いました。

恒例の夏期研修会は8月19日(土)、20日(日)、群馬研修館で行われました。「とにかく書く」を合言葉に盛沢山の課題に挑戦、Tシャツに書いたり楽しい2日間となりました。

北朝鮮が発射するミサイルが日本上空を通過するとのニュースで列島が緊迫。変わらぬ日常の中に危機が迫っているとは考えたくないことですが、何とか話し合いで解決出来る事を願います。

(早坂喜伊)

(会報編集委員／高頭子翠、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、渡邊麻衣子)

表紙：題字揮毫は風岡五城理事長

編集・発行 平成29年9月号

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2

産経新聞社事業本部内

産経国際書会事務局

TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974

<http://sankei-shokai.jp/>

<https://www.facebook.com/sankeishokai>

お願い

会員の皆様に住所・電話番号等の変更があった場合には事務局までご連絡くださいますよう、また、各会書展のお知らせは早めにお願ひ致します。